

町家を再生させて伝統建築を守り

京都の観光と商店街も活性化

小町家

代表

田中正恵さん



田中正恵さん

平成22年度 採択事業

滞在者が自由に過ごせる町家

三条東大路角を東へ行くと、ひなびたアーケードの古川町商店街が見えてきます。その中ほどに建つ、出格子からまるやかな光がもれる一軒の町家。一文字瓦と虫籠窓のたたずまいは伝統的な造りですが、普請は新しく、最近に改修されたことがうかがえます。ここが、「ひとときの京暮らしを楽しんでもらおう」と始められた小町家です。

小町家は1日1組限定で、一棟丸ごと借りるシステムになっています。料金は1日2名25,000円からで、人数やシーズンによって金額が変わり、大勢になるほど割安に利用できます。利用者は期間を定めた賃貸契約を結び、鍵を預かります。それからチェックアウトまでは、借りた人が自由に過ごせます。のんびりするのもいいし、無料で使える自転車で観光を楽しんだり、パーティーを開いてもOK（但し、近隣への要配慮）。お客さんは家族旅行が多いそうですが、京都の大学に通っていた人が泊まりがけの同窓会を開いたり、全国から人が集まって趣味の会を開くこともあるとか。自宅感覚でくつろげるため、訪れた人は「京都に定宿ができた」と喜んでリピートされるそうです。



復元した出格子が町家らしい外観

京都らしい空間でくつろげる

オーナーの田中正恵さんは大阪に生まれ育ち、アンティークや伝統文化に親しむうち町家に惹かれ、2年半前から京都に移り住んで小町家を運営しています。「昔から家具や建築などの職人技に興味があり、オーストラリアへ留学した際に、日本人の技や文化を大切にしたいと強く意識するようになりました。とりわけ町家は、癒しの気に満たされてホッと落ち着けます。せっかく京都の風情を求めてきた旅行者がアーバンなホテルに泊まるのは味気ない。こんな空間で過ごすことが

観光資源の活用 人・まち・社会を元気に

できたら、京都を堪能できるのではと思ったんです」と田中さん。マーケティング・リサーチの仕事をするかたわら物件を探して、出会ったのが築約100年になるこの家でした。

引き戸をカラカラ開けると開放的な土間があり、通り庭から坪庭が見通せます。土間の向こうには3畳の台所の間と6畳の居間が続き、襖を取りはらえば一つの部屋としても使うことができます。2階は昔の間取りを活かして3つの和室があり、虫籠窓の裏に当たる板の間は商店街を見下ろすくつろぎの空間になっています。



炬を切って茶道も楽しめるようにした居間

ファンドで宿泊の快適さを増強

以前は漬物屋だったそうで、購入当時は新建材でかなり改築されていました。工事にかかる予想外の傷みや復元の難しい箇所もありましたが、できるだけ昔の状態に戻し、本来の町家らしい状態にしたとのこと。いっぽうで台所やトイレ、浴室などは、気持ち良く宿泊できるように現代のもので調べてあります。資金面で厳しい部分は自分で壁を塗ったり、できる限り自分で行ったそうです。

予算内でなんとか体裁を整えたものの、手が回らない部分もありました。とりえず平成22(2010)年1月11日に開業し、3月19日から宿泊客を迎えるようになって間もなくファンドを知り、すぐに応募。

「お風呂に浴室暖房乾燥機を付け、底冷えの冬も快適に入浴してもらえるようになりました。2階には洗濯物が干せる欄干を設けて、長期滞在の方に喜んでいただいています。居間には炬を切り、茶道体験やお茶会を開きたいという方の要望へ添えるようになりました。ファンドのお陰で、やりたくても資金面で無理だったことが実現し、本当にありがたかったです」と田中さんは語ります。



坪庭を見ながら入れる半露天の浴室

地域に根ざした商店街を盛り上げたい

古川町商店街は昔から親しまれ、賑わってきた商店街ですが、近年は空き店舗が増え、店主もお客さんも高齢化していました。田中さんがこの物件と出会ったとき、古き良き商店街をこのままさびれさすのは無念だ、活気を取り戻す手伝いができないかという思いも芽生えたそうです。

小町家には調理器具や食器類も完備してあるので、泊まったお客さんは商店街で食材やお総菜を買いこんで食べられます。地元の人と同じ生活で京都人の気分を満喫できるようにしたのは、商店街を利用してほしいという願いもあったからです。

田中さんは商店街振興組合に加入し、イベントにもできる限り参画しています。例えば、小町家で行う催しの参加者に商店街で使える商品券を配ったり、商店街ぐるみで盛り上げられる企画を立てたり。京都の人に催事場として貸し出すなど、地域とのつながりを大切にしているのです。

「小町家が開業してから、商店街に町家の宿がさらに2軒できました。それぞれにお客さんがつき、賑やかさが少し戻ってきたと感じます。今後は落語会や茶道、焼き物の絵付けなど伝統に親しめる体験イベントを増やし、全国・海外はもとより京都の人にも古川町商店街で楽しんでもらいたい」と田中さん。軌道に乗ったら、構築したノウハウを活かして2軒目、3軒目の小町家を作っていきたいとの夢は、そう遠くないうちにかなうかもしれない。

事業概要

小町家

<http://www.komachiya-kyoto.com/jp/>

代表：田中正恵

業種：貸し町家

創業：平成22(2010)年

住所：〒605-0026

京都市東山区古川町 543-2

TEL：090-2705-6042